

## 県庁舎建築工事書類（昭和24年）

明治19年建設された佐賀県庁は、初代県令鎌田景弼時代、長崎県から独立発足の記念と佐賀県政の飛躍を目指して建設されたものでした。

オランダ人技師によって設計されたルネッサンス式の総2階のグリーンの彩色を施した本館は堂々たる構えで、スパイラルロールを柱頭に飾った玄関前の四本の柱は、クラシカル雰囲気を漂わせ、佐賀城のお堀と楠、貫通道路（現・国道264号線）と相俟って調和のとれた建築物でした。



（旧県庁正面 県立図書館蔵）

その佐賀県庁が昭和24年2月18日、火災により焼失しました。



(福岡 博氏提供 「ふるさと思い出写真集 明治・大正・昭和 佐賀市」掲載)

歴史的文書閲覧室が保存している『県庁舎建築工事書類』には、旧庁舎の火災発生から被害状況報告、新庁舎の設計書、工事入札関係書類があります。

その中にある『佐賀県庁舎火災状況報告並びに復旧対策』では、その様子を次のように伝えています。

昭和24年2月18日午前零時40分頃県庁本館地方課付近から出火、夜半のこととて消防隊の出動が遅れ、佐賀市常備消防隊について、逐次隣接町村からの応援を受けると共に懸命に消火につとめたが、火の手は意外に早く、県庁本館、土木部、農地部、車庫、県職会館、日赤支部（農林部の一部）倉庫など延1,727坪を焼失し、午前3時40分に鎮火。

なお、火勢が極めて強かったため、総務、民生、土木、農地、農林、衛生の各部は書類搬出のいとまなく灰じんに帰した。

18日午後2時県議会は全体会議を招集、「災害復旧緊急対策」を協議、全会一致で新たな県庁舎を耐震耐火鉄筋コンクリート4階建てとすることを決定した。

新たな県庁舎の設計者については、建設省に推薦を依頼したところ前・復興院総裁、現・特別調達庁長官安部美樹志（安部設計事務所）の指名があり、5月に依頼し、10月に設計が完了しました。

設計者・安部美樹志は、正面図裏面に設計意図を次のように書き込んでいます。

本案は、その後考査を加え、正面玄関部を多少変化を与え、かつ全体の感じをおとなしく見せたつもりです。

すなわち正面4本のオーダ式柱を等分に置かず両側に寄せたもので、正面入口を堂々とした感じを持たせました。

もっとも、この丸柱は實際上、奥行を持ちますから、この感じより太くなります、

又、両袖の並列柱は巾3尺で、一般パラペット（各階）面より約1尺（30糎）出ますから、影を投じて相当に堂々たる感じを与えます。

火災発生から1年10ヶ月後の昭和25年12月15日県庁舎が落成しました。総工費1億2,786万円と延べ6万人の労力を要しました。

その様子を佐賀新聞（12月16日）は次のように伝えています。

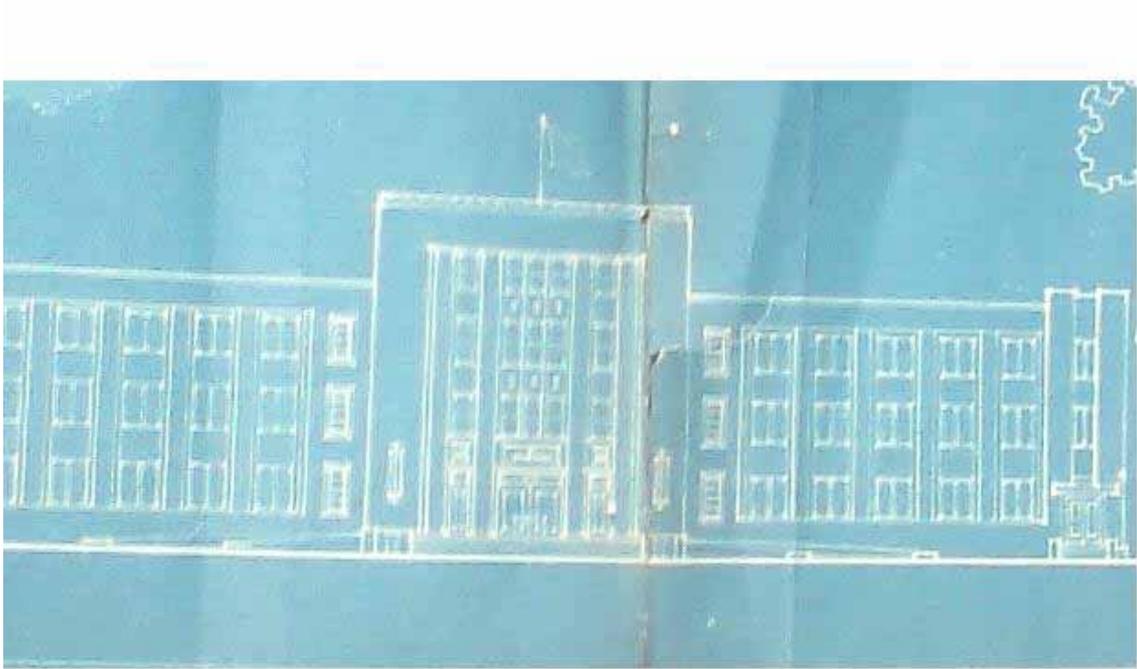
きのう縣廳舎落成式

祝賀気分ひといろ

繰出した見物の人波二万

新縣廳舎落成式のきのう15日は縣下各地からくり出した面浮流やシシ舞、本社、佐賀市、佐賀商工会議所など共催の仮装行列、記念大売出し、これに新廳舎參觀の人々でごった返した・・・。

このように新しい県庁舎への県民の関心は高かったようです。



(県庁正面設計図 歴史的文書閲覧室蔵)